

災害時を想定した生活習慣病の 悪化防止について

～糖尿病患者における薬物療法の 理解とお薬手帳の必要性～

○北村正人¹⁾、嘉悦雅子²⁾、河口仁美¹⁾、東豊¹⁾、河口敏浩¹⁾、松尾浩民²⁾
有限会社相思樹ハートライフ薬局¹⁾、就実大・薬²⁾

演題発表に関連し、開示すべき COI 関係にある企業・団体はありません

演題発表に関連し
開示すべき COI 関係にある
企業・団体はありません

<研究の背景と目的>

被災した**糖尿病患者**に起こりえること

①避難所での食生活

おにぎり、**菓子パン**、うどんなどの炭水化物中心

②被災後の身体的問題

睡眠不足、ストレス、生活環境の変化による身体的負担



糖尿病の病状悪化

血糖値のコントロールは合併症の発症や進展と密接に関連する

被災時に、病状の悪化を防止するために習得すべきこと

- ・ 自らの**血糖値を確実に管理**する方法
- ・ 病状が**悪化した際の初期症状**に関する知識

目的

糖尿病患者を対象にアンケート調査を行い、

- ・ 糖尿病に対する**正しい知識**
- ・ **お薬手帳**の重要性の認識

に関する現状の把握と分析を行う



<方法>

<アンケート調査>

- ・ 調査期間： 2019年10月中旬から 1ヶ月間
- ・ 調査対象： 当該薬局4店舗（西大寺町店、京町店、浦安店、松島店）に来局した糖尿病患者（ただし、糖尿病薬を初めて処方された患者、運動療法のみ行っている患者は除く）

糖尿病患者における災害対策アンケート

就実大学薬学部代謝学研究室・ハートライフ薬局 共同研究

下記の該当する項目に○をつけてください。

(1) 現在の年齢と性別を記入ください。

()歳 (男・女)

(2) 糖尿病の他に合併症をお持ちですか？お持ちの方は、選択肢からお選びください。また、診断を受けて何年たったかわかる方は () 内にご記入お願いします。

- 1.高コレステロール症 2.高血圧 3.高尿酸血症(痛風)
4.その他() 5.なし

(3) 現在飲んでいる糖尿病の薬に関してお聞きます。

・今の服用されている薬の名前や用法(飲み方 例:1日3回服用)、規格(〇〇mg)を覚えていますか？覚えていらっしゃる方は下のかっこ内にお書きください。

- 1, はい()
2, いいえ

・日頃から飲まれているお薬を持ち歩いているあるいは身につけていますか？

(はい ・ いいえ)

低血糖になったときの対処法を理解していますか？又は飴やブドウ糖を持ち歩いていますか？

(はい ・ いいえ)

(4) 糖尿病の症状に関してお伺いします。

・糖尿病が重症化するとどのような状態になる病気がご存じですか？

(はい ・ いいえ)

・高血糖の症状をご存じですか？

(はい ・ いいえ)

・低血糖の症状をご存じですか？

(はい ・ いいえ)

(5) お薬手帳についてお伺いします。

・お薬手帳を普段から持ち歩いていますか？

(はい ・ いいえ)

・お薬手帳は必要だと思いますか？

(はい ・ いいえ)

(6) 日頃の生活習慣についてお伺いします。

・朝・昼・晩の自分の食事の摂取量又は摂取カロリーをご存じですか？

(はい ・ いいえ)

・自分の食事の摂取カロリーを知っていると答えた方にお伺いします。

カロリー計算を自分でしていますか？

(はい ・ いいえ)

・普段、糖尿病対策として運動をされていますか？

(はい ・ いいえ)

(7) 避難生活を余儀なくされた場合のことについてお伺いします。想像でも構いませんのでお答えください。

・避難生活をしなければならぬ時に救護の方に糖尿病であることを申告しますか？

(はい ・ いいえ)

・「いいえ」を○つけた方にお伺いします。理由をかっこにお書きください。

()

以上でアンケートは終了です。協力いただきありがとうございました。

- ・ 分類： 処方内容に応じ、以下の3つのグループに分類

重症度①： 内服2剤以内

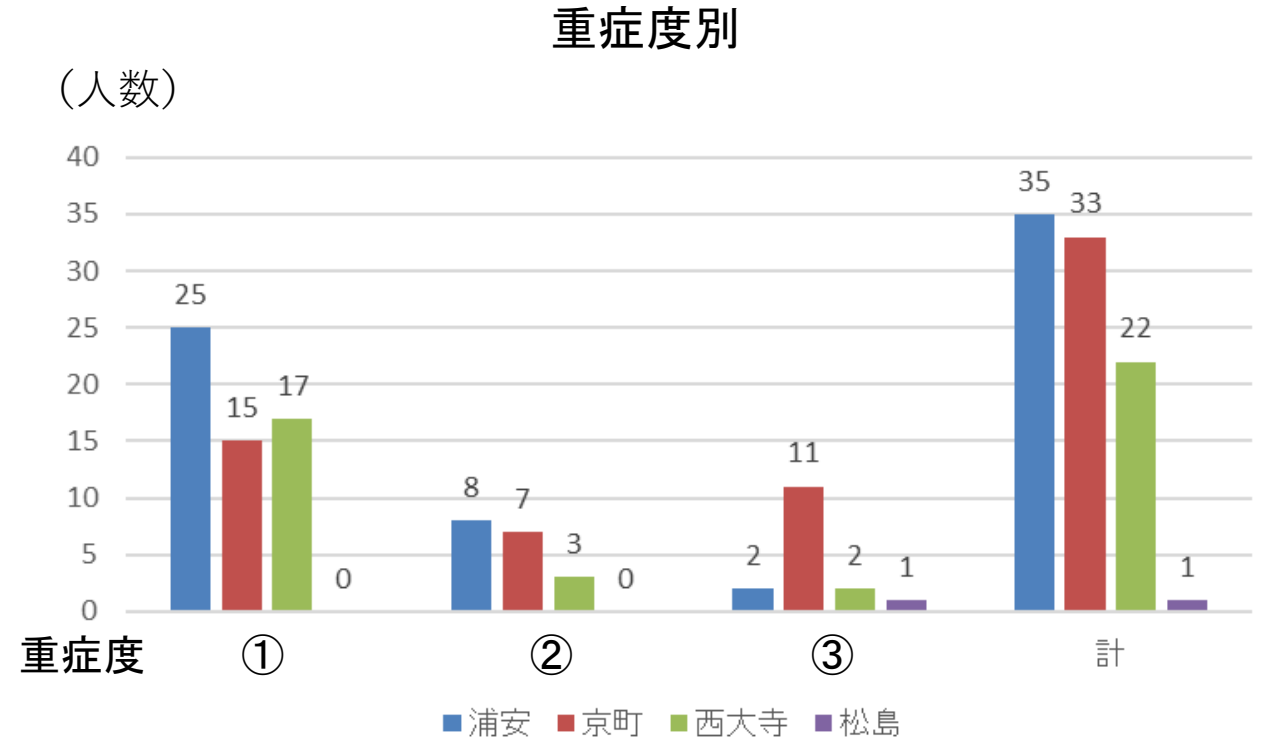
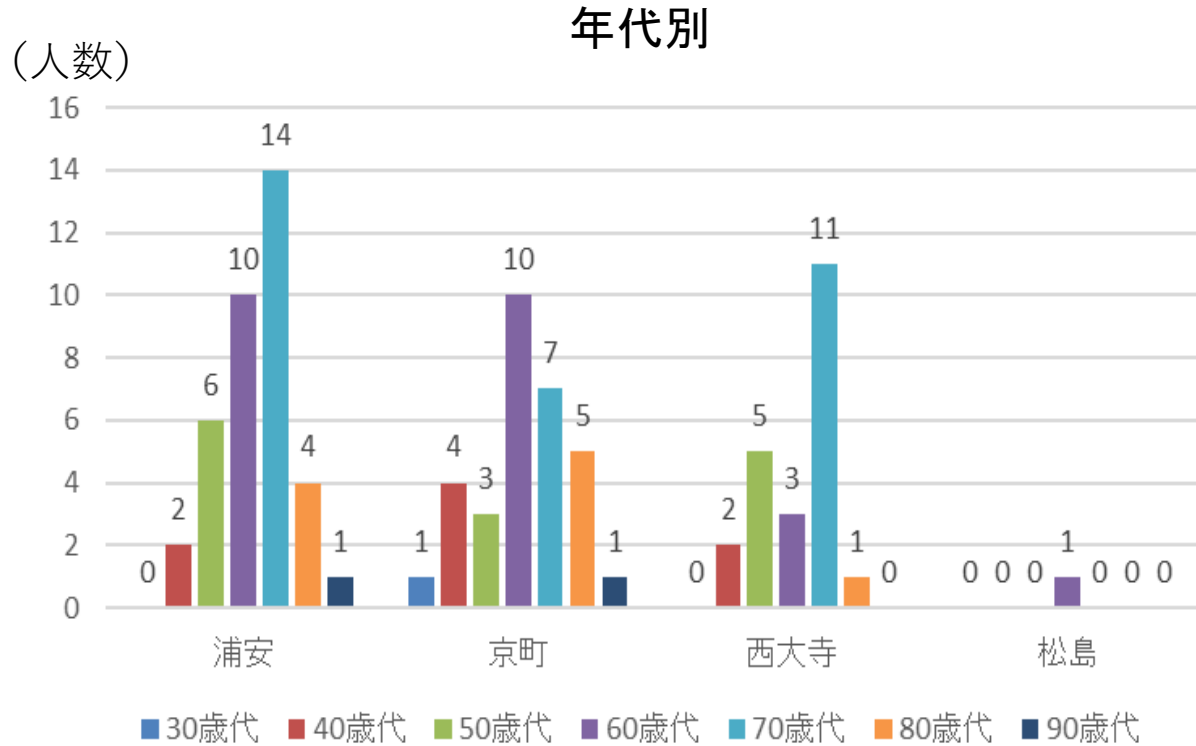
重症度②： 内服3剤以上

重症度③： 内服薬とインスリン注射
又はインスリン注射のみ

糖尿病患者における災害対策アンケート

<結果>

(1) 年代・男女比と重症度別の人数



- 男女構成・男性：62名
女性：30名
無回答：1名（重症度無回答も含む）

(2) 糖尿病に関する知識

I 「糖尿病に関する知識がある」

72名 (79.1%)

- ・浦安店：31名
- ・京町店：22名
- ・西大寺町店：18名
- ・松島店：1名



約8割の患者が糖尿病に関する知識がある

II 「高血糖症状を知らない」

45名 (50.0%)

- ・浦安店：12名
- ・京町店：21名
- ・西大寺町店：12名
- ・松島店：1名



患者の半数が高血糖に関する知識不足

III 「低血糖症状を知らない」

60名 (65.9%)

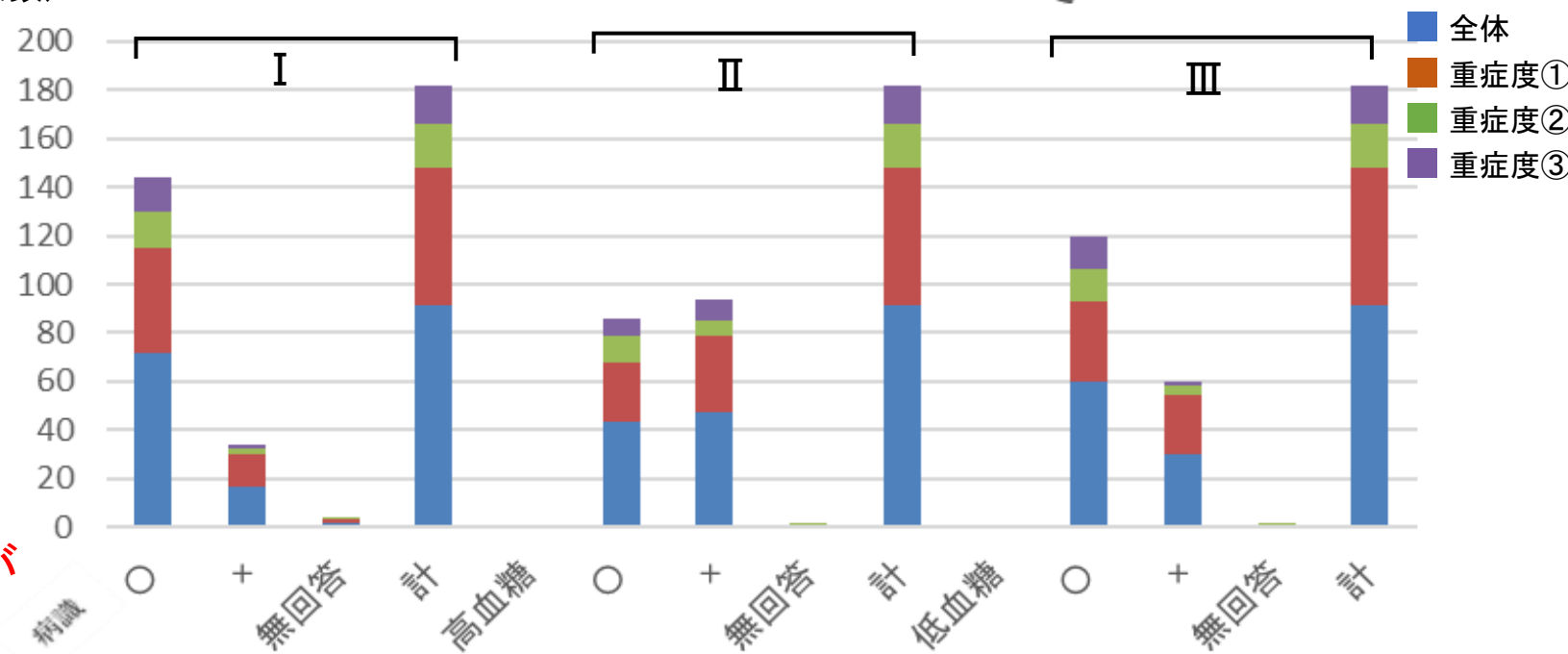
- ・浦安店：25名
- ・京町店：20名
- ・西大寺町店：14名
- ・松島店：1名



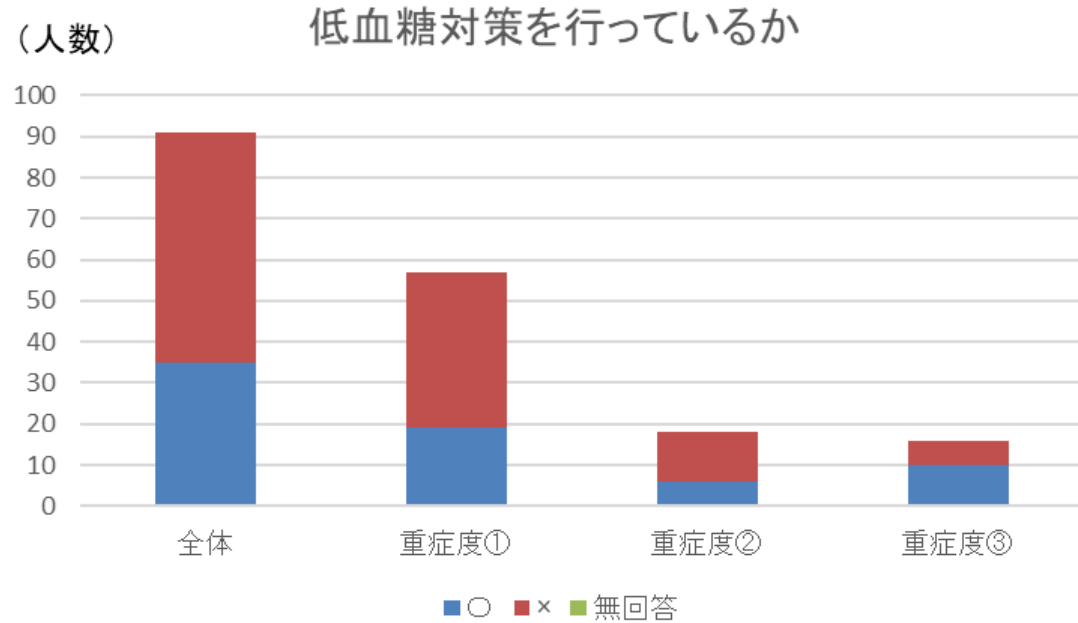
重症度が低いほど低血糖症状に関する知識不足

糖尿病患者の糖尿病・高血糖・低血糖に関する知識

(人数)



(3) 低血糖対策の状況



「低血糖時用の対策を実践していない」

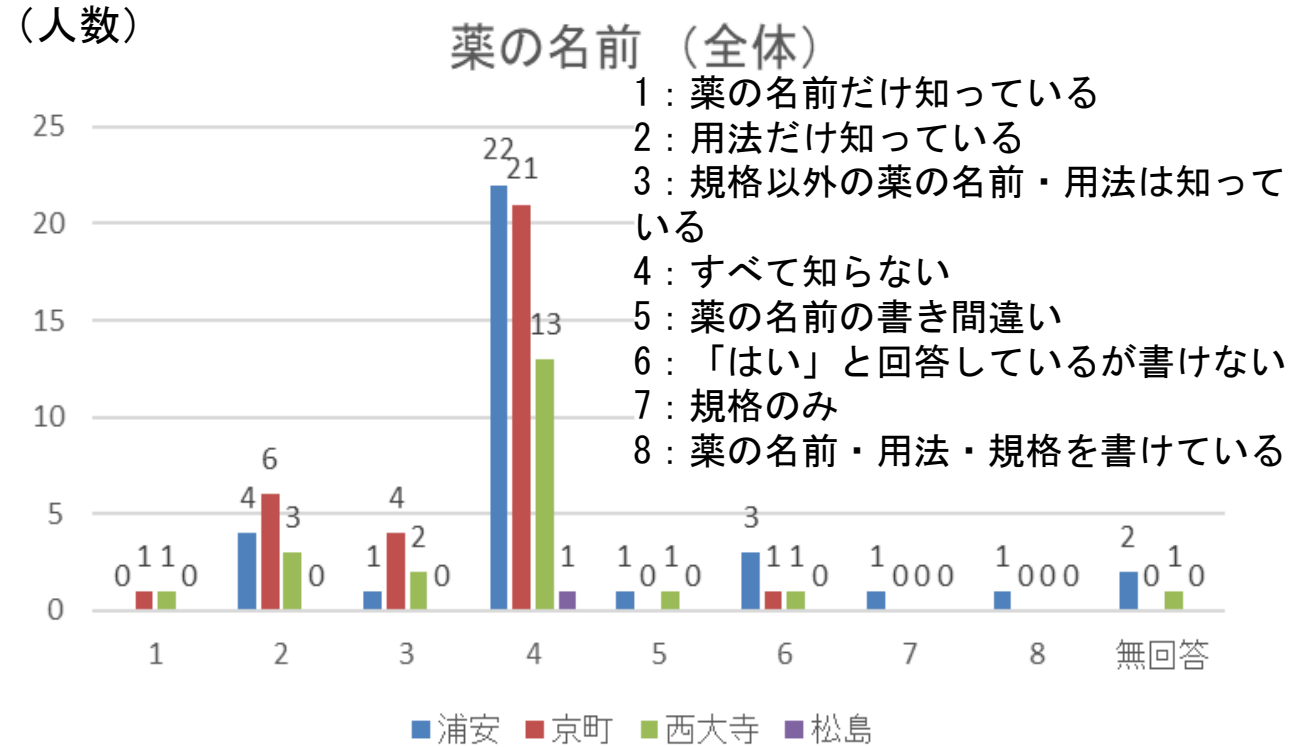
56名 (61.5%)

- ・ 浦安店：25名
- ・ 京町店：19名
- ・ 西大寺町店：12名
- ・ 松島店：0名



知識を持っているが対策している患者は半数以下

(4) 糖尿病薬の名前・用法用量の理解度



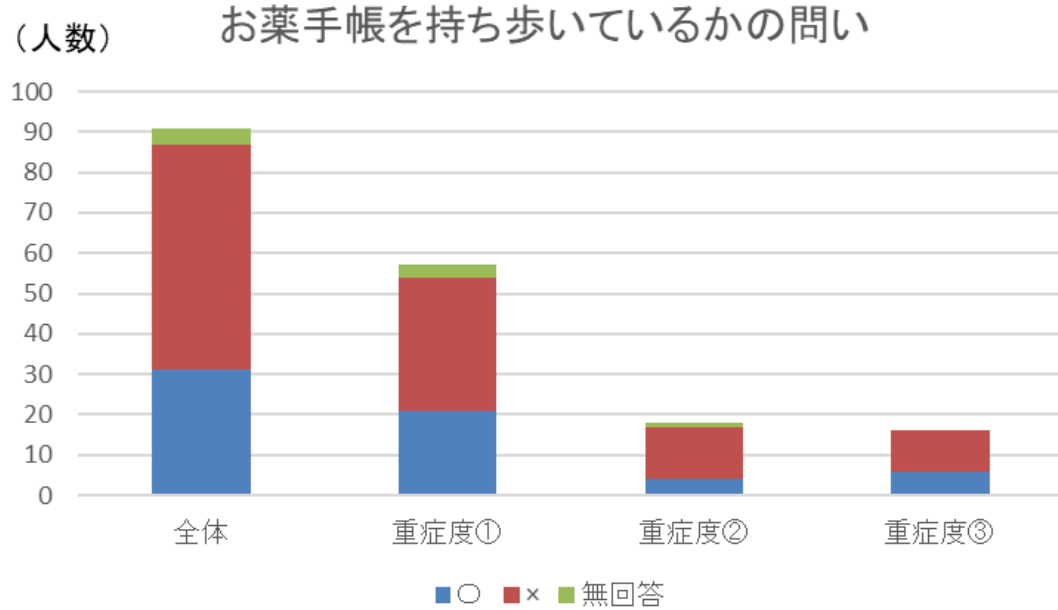
「薬の名前・用法・用量を覚えていない」

57名 (62.6%)



多数の患者が薬の名前・用法用量を正確に覚えていない

(5) お薬手帳の利用状況と必要性



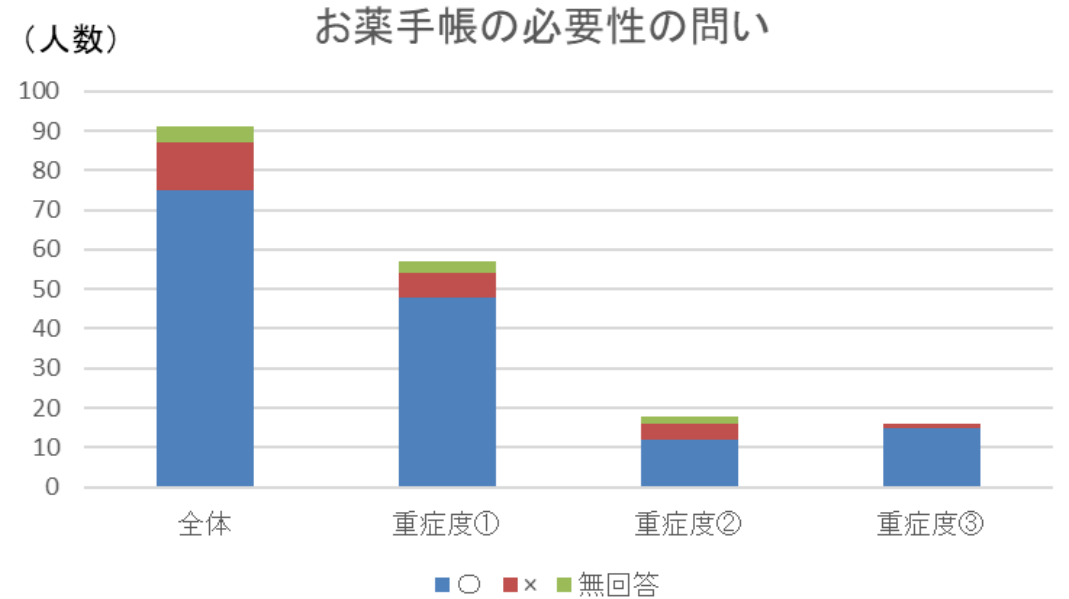
<1> 「手帳を持ち歩かない」

56名 (61.5%)

- ・ 浦安店 : 23名
- ・ 京町店 : 21名
- ・ 西大寺町店 : 12名
- ・ 松島店 : 0名



患者の半数以上が持ち歩いていない



<2> 「お薬手帳の必要性を感じている」

75名 (82.4%)

- ・ 浦安店28名
- ・ 京町店28名
- ・ 西大寺町店18名
- ・ 松島店1名



<1>と比較して、お薬手帳の必要性を感じているが実際に持ち歩いてる患者は半数以下

<考察>

糖尿病患者の糖尿病に関する知識について

<問題点>

糖尿病の症状に関する
知識不足

対 策

① 服薬指導時の声かけ

糖尿病に関連するポスターやリーフレットを活用した服薬指導を行う

② お薬手帳の活用

糖尿病に関する知識、低血糖や高血糖に関する情報を記載したシールの貼付

お薬手帳の重要性

<問題点>

被災した際、お薬手帳がない



医療従事者に必要な情報（薬剤名、用法用量等）を正確に伝えられない



継続的な治療が困難

- ・ 血糖値の変動による病状悪化
- ・ 合併症の発症

対 策

「患者が知りたい」「医療者が伝えたい」情報を容易に得るためには・・・

お薬手帳の携帯率向上が重要



薬剤師がなすべきこと
患者に対し、お薬手帳の活用について積極的な声かけを継続して行う

<結語>

- ・慢性疾患、特に糖尿病の患者においては、病気に関する知識、薬の理解などが予想以上に欠けており、投薬時におけるより詳しい説明が必要である。
- ・今回の調査を踏まえ、通常通り投薬時に検査値を確認し、状況に応じて食事療法、運動療法等説明していても、それを自分の知識として持ち、活用している患者は予想外に少ないと考えられる。
- ・処方薬について、何の予備知識もない一般人には頻回な説明が必要と思われる。



- ・各患者において病状・処方薬に関する理解度を個別に調査し、投薬時に時間をかけて繰り返し説明をすることが重要である。
- ・副作用に関して、低血糖の説明のみならず、災害時において薬剤が入手できない場合の高血糖症状についても日頃、十分な説明が必要と思われる。

以上、病気の把握・薬剤の知識を補完するものとして、**積極的に薬手帳を活用し**、例えば、変薬の際にはその時々検査値を記入し、簡略化した表現で処方薬の作用機序を図解など用いて記載すべきではないかと考える。